



目標—指導—評価の一体化のための学習評価

中学校総合的な学習の時間のポイント



中学校総合的な学習の時間における単元の学習評価について、単元の目標及び「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成と評価計画と具体的な見取りについて具体的な事例をもとに説明します。

【事例Ⅰ】 評価規準の作成について

【A中学校第1学年の例】

単元名：〇〇市の自然環境を未来の世代につなごう



学習指導要領には、どの学年で何を指導するかという内容の明示がありません。これは、各学校が、学習指導要領に定める目標の趣旨を踏まえて定めた目標の下で、地域や学校、の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているからです。

【Step1】 学校における総合的な学習の時間の目標を作成する。


探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために以下の資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けているとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

(中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編 P. 67 を参考に例示)

【Step2】 【Step1】で作成した目標を受けた「内容のまとまり」を設定する。

総合的な学習の時間における「内容のまとまり」とは、一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力と考えることができます。

目標を実現する にふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解する。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。 持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探的に学習してきたことの成果であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見通しをもって計画を立てることができる。 課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えることができる。 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。 自他の意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。 地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとする。 

[Step3] 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

[Step2] で作成した『内容のまとめり』の文末を「~している」等に変換して作成する。

目標を実現するにふさわしい探究課題	内容のまとめりごとの評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解している。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見通しをもって計画を立てている。 課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えている。 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 自他の意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとしている。

[Step4] 『内容のまとめり』をもとに単元の目標を作成する。

<p>〔単元の目標〕</p> <p>〇〇市における自然環境に関する調査活動を通して^ア、自然環境は人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解し、持続可能な視点から多面的に自然環境の在り方について考える^ウとともに、自らの生活や行動に生かすことができる^エようにする。</p>

※ア 単元において中心となる学習対象や学習活動
 ウ 単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
 ※イ～エは、アとの関わりにおいて作成する。
 イ 単元において重視する「知識及び技能」
 エ 単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

[Step5] **[Step3]**で作成した「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

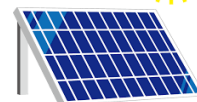
単元名	単元の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〇〇市の自然環境を未来の世代につなごう	<ol style="list-style-type: none"> 持続可能な自然環境の実現には、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。 まちの環境がどのように変遷してきたかを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。 〇〇市の自然環境に関する問題状況と自分たちの生活との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 	<ol style="list-style-type: none"> まちの変遷と調査活動とを結び付けることを通して、〇〇市の環境における問題を明らかにし、解決への見通しをもって計画している。 まちの環境に関する現状を捉えるために必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。 収集した情報を比較・分類することで、「効果がすぐ表れる取組」、「多くの人を巻き込むことができる取組」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えている。 持続可能な自然環境の実現に向け、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、「環境フォーラム」で訴えている。 	<ol style="list-style-type: none"> 調査活動の振り返りを通して自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 自然環境への市民の関心を高めるための実効性のある取組の実施に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。 持続可能な自然環境を次世代につなぐために、自分の生活を見直し、地域と協働しながら自分にできることに取り組もうとしている。

【事例Ⅱ】指導と評価の計画と具体的な見取り

【B中学校第2学年の例】

単元名：未来の人も豊かな暮らしをするために～エネルギー問題について考え、自然環境との共生を目指す～

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>※「知識・技能」の観点については、「①概念的な知識の獲得」、「②自在に活用することが可能な技能の獲得」、「③探究的な学習のよさの理解」の三つに関する評価規準を作成することが考えられます。</p> <p>① エネルギーの問題について、資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること、生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。</p> <p>② 地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。</p> <p>③ エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。</p>	<p>※「思考・判断・表現」の観点については、「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の四つに関する評価規準を作成することが考えられます。</p> <p>① 電気エネルギーを生み出すための発電について、何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。</p> <p>② 多様な発電方法について、その仕組みや特徴に関する情報を、幅広く効率的に収集している。</p> <p>③ 自分でできる節電方法について、それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで、取り組むことの優先順位を決めている。</p> <p>④ エネルギー問題の解決方法について、結論に対する根拠を明らかにして、自分の考えを主張している。</p>	<p>※「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視しながら「①自己理解・他者理解」、「②主体性・協働性」、「③将来展望・社会参画」などについて評価規準を作成することが考えられます。</p> <p>① エネルギーに関する問題について、調べたことの中から伝えたいことを明確にして、新聞を作成しようとしている。</p> <p>② 太陽光発電が増えることの是非について、異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。</p> <p>③ アンケートの結果から、これからの社会を視野に入れ、節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。</p>



指導と評価の計画を立てる

指導と評価の計画（全50時間）

小単元（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 豊かな暮らしの背景にあるエネルギー問題について考えよう。（15）	・エネルギーに関する問題を出し合い、解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・発言 ・計画書
	・電気に焦点を絞り、様々な発電方法の仕組みや特徴について調べる。		②		・ワークシート
	・社会見学を通して、化石エネルギーや再生可能エネルギーを利用した発電の意義について考え、学んだことを新聞にまとめる。				①
2 エネルギー問題の解決に向けて、自分たちができる取組について考えよう。（25）	・太陽光発電施設の見学や、太陽光発電の設置業者にインタビューを行い、太陽光発電のメリット・デメリットを議論する。 具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」			②	・振り返りカード
	・太陽光発電や再生可能エネルギーについて、身近な地域や実際の現場での調査を行い、情報を収集する。				
	・エネルギーの自給自足に取り組む人の話を聞き、自分たちができる効果的な節電方法について考える（私の節電ベスト3）。 具体的事例②「思考・判断・表現③」		③		・「私の節電ベスト3」シート
	・節電に対する意識を地域に広げ、多くの人に節電に取り組んでもらうために、地域が一斉に消灯する活動を企画し実行する。	②			・節電企画シート
	・活動に対する地域アンケートを行い、集計結果をもとに、活動の有効性を見つめ直す。			③	・活動報告書
3 取組を振り返り、エネルギー問題について自己の考えをまとめ、今後の関わり方について考えよう。（10）	・海外の電力事情（フランス・ドイツ）を比べ、発電方法や電力生産の方向性について、自分の考えを主張文（結論と理由）としてまとめる。		④		・主張文
	・作成した主張文を使って、「これからの社会における発電や電力生産」についてのパネルディスカッションを行う。 具体的事例①「知識・技能①」	①			・発言 ・主張文への追記
	・単元を通して学んだ記録（振り返りカード、私の節電ベスト3、主張文など）を振り返り、自己の成長や学習したことを基にして、「10年後の私」宛に手紙を書く。	③			・手紙

「どのような姿を見取ることができればいいのか」 評価規準を生徒の姿で捉える

知識・技能

具体的事例①「知識・技能①」



生徒A

私の主張は、石炭、石油などによる火力発電を減らすことです。その代わりにクリーンエネルギーを使いたいと思います。なぜなら、石炭、石油は埋蔵量に限りがあり、いつまでも永遠に使えるわけではありません。〇〇君の発言のように、シェールガスなどの地下資源のような新しい発見もありますが、それもいつか使い切ってしまうと思います。自分自身だけではなく、私の子供や、私の孫の世代になっても続けられるような発電方法を、主に活用することが大切だと考えるようになりました。
～「主張文」の追記の一部より～

生徒Aは、これまでに発電方法や節電の方法を学び、その知識を獲得してきました。パネルディスカッションを通して、互いの主張を出し合う中で、発電の主力として行われている火力発電のよさを確認するだけでなく、石炭、石油などの資源が有限であることを自覚しました。また、そのことは、持続可能性に大きく関係することを理解し始めています。また、石炭、石油だけではなくシェールガスなどにおいても同様の視点が欠かせないことにも気付いています。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができます。



思考・判断・表現

具体的事例②「思考・判断・表現③」



生徒B

私の節電ベスト3は、「①コンセントを抜く、②部屋の照明をこまめに切る、③エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は22℃に設定する」である。その中でも、「コンセントを抜く」に取り組んでみたい。長所は、コンセントを抜くだけなので簡単である。家で使う電気機器のコンセントを抜くだけで一カ月約100円の節約になる。短所は、使うときにすぐに使えない。ビデオ録画の予約ができないことなどがある。今日の話合いでも、電気ポットやドライヤーのコンセントを外しても、テレビや電子レンジなどのコンセントはつけたままの家が多いことが分かったので、待機電力を意識してみんなで節電に取り組めば、大きな効果を生むと思った。次回、みんなで取り組めるかどうか提案したい。
～「私の節電ベスト3」シートより～

生徒Bは、具体的な節電方法のベスト3を明らかにし、その中でも最も有効な方法について、長所と短所の理由から判断しようとしています。その中でも、他の生徒が意識していないが手軽にできる方法を選択しています。また話合いから待機電力への意識が低いことに気づき、全体で取り組むことに対する意欲を高めていることがわかります。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができます。



主体的に学習に取り組む態度

具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」



生徒C

これからのことを考えると火力発電から太陽光発電に切り替えることが絶対によいと思っていた。火力を生み出す化石燃料は限られているし、太陽光発電なら二酸化炭素の排出も気にしなくてよいらだ。でも、山を切り開いてソーラーパネルを置くことで、そこに棲む動物たちの暮らしにも影響があるという反対意見を聞いた時、最近になって、イノシシがまちに何度も現れる理由とつながった。僕は、これまで太陽光発電のよい面しか見ていなかった。だから、次回までに、問題点も調べた上で、自分の考えをはっきりさせたい。
～振り返りカードの記述内容より～

生徒Cは、当初、太陽光発電に対して肯定的な考えをもっていたが、山を切り開くソーラーパネルの設置による弊害と地域の問題状況を関連付けて自らの考えを見つめ直しています。また、太陽光発電に対して肯定的な側面だけでなく、否定的な側面についても調べる必要があることにも言及しており、自分の今後の調査に生かそうとしていることがわかります。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができます。



評価結果の総括と指導計画の改善について

評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な学習の時間の記録」に記述することが考えられます。その際、評価規準にかかわらず教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切です。

指導計画については、実際に学習活動を展開する中で、教師が予想しなかった望ましい活動が生徒から提案されたり、価値ある学習を生み出す問題場面に遭遇したりする可能性もあります。その場合は、授業計画を修正するなど、柔軟性をもつことが大切です。このように指導計画の評価・改善は、①一単位時間の授業計画、②単元計画、③年間計画、④全体計画の全てを見渡して行うことが求められます。